

コースコード：RH-RH354

税抜価格：240,000円

日数：3日間

---

## 前提条件

Red Hat 認定システム管理者 (RHCSA) である、または Red Hat Enterprise Linux の同等の知識と経験を有する

## 受講対象者

このコースは、以下のような熟練した IT プロフェッショナルを対象に、Red Hat Enterprise Linux 8 のプレビューを提供します。

Linux システム管理者  
DevOps エンジニア  
クラウド管理者

## コース概要

新しいパッケージ、モジュール、アプリケーション・ストリーム機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux 8 をインストールする

新しいツールを使用して Red Hat Enterprise Linux 7 から Red Hat Enterprise Linux 8 へアップグレードする

Stratis を使用して統合ファイルシステムとボリューム管理を実行する

Cockpit を使用してシステム管理を実行する

Composer でシステムイメージを作成する

authselect を使用して ID 管理を設定する

Wayland グラフィカル・ディスプレイ・サーバーを理解する

新しい統合 OCI ランタイムとツールを使用してコンテナをデプロイする

新しい NFT バックエンドを使用するファイアウォールルールを設定する

## 目的

Red Hat Enterprise Linux 8 に加えられた変更を学習して、新しい OS の知識を取得

本トレーニングでは、今後の Red Hat® Enterprise Linux® リリースにおけるアップデートを紹介します。このコースは熟練した Linux システム管理者向けで、リリース前のベータ版に基づいて Red Hat Enterprise Linux 8 を速習します。運用担当者、マネージャー、システム管理者、およびその他の IT プロフェッショナルは、Red Hat Enterprise Linux 7



でデプロイと新リリースへの移行を実施するための準備ができます。

このコースは Red Hat Enterprise Linux 8 に基づいています。

## アウトライン

Red Hat Enterprise Linux 8 のプレビュー

今後の Red Hat Enterprise Linux 8

リリースにおける主要な改善や機能強化を説明します。

Red Hat Enterprise Linux 8 のインストールとアップグレード

Red Hat Enterprise Linux 8 をインストールするか、既存システムを Red Hat Enterprise Linux 7 から Red Hat Enterprise Linux 8 にアップグレードします。

サーバーのプロビジョニングと管理

デプロイ用のシステムイメージの生成、リモート Web

ベース管理によるシステムイメージの管理、Red Hat Enterprise Linux

System Roles for Red Hat® Ansible Engine

によるプロビジョニングの自動化によって、標準化されたシステムを準備します。

コアシステムの変更への適応

Red Hat Enterprise Linux 8

で大幅な変更があったコア・システム・コンポーネントを管理します。

新機能を使用したストレージの実装

ローカルおよびリモートのファイルシステムとボリューム管理コンポーネントでの主な拡張機能を確認します。

新しいランタイムによるコンテナの管理

Docker コンテナエンジンに代わる、新しいコンテナ・ランタイム・エンジンとツールについて説明します。

強化されたネットワーク機能の実装

ネットワークパケット処理とネットワークデバイス管理の主な拡張機能を説明します。

改善された仮想化への適応

仮想化管理の新しい機能と管理ツールの実装方法を学習します。